

分散型カルマンフィルタの推定誤差解析

立命館大学 理工学研究科 電子システム専攻

システム制御工学研究室

○佐藤 祐樹, 鷹羽 浄嗣

合意誤差が推定値に与える影響を解析する.
また合意の回数が無限大でなくとも不偏推定値を計算
できる手法を提案する.

目次

はじめに

問題設定

合意誤差に基づく推定誤差解析

修正版分散型カルマンフィルタ

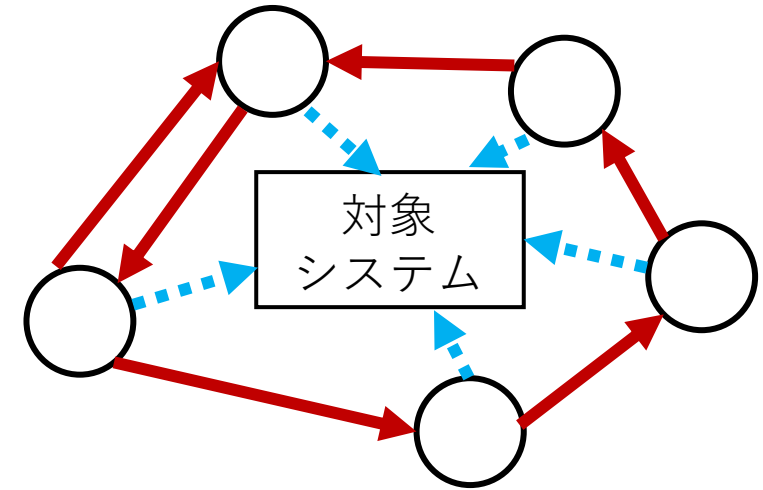
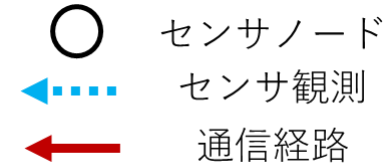
シミュレーション

おわりに

はじめに

背景

センサや無線通信機器の小型化によりセンサネットワークに関する技術が近年注目を集める



分散状態推定問題

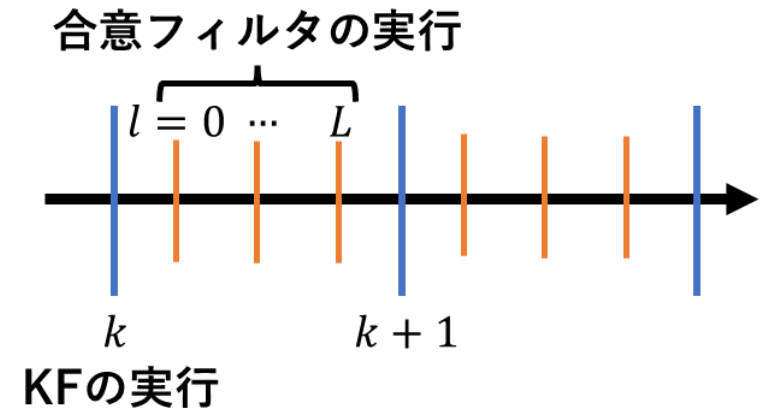
複数センサで得られた観測値から対象システムの状態を推定

➡ 分散型カルマンフィルタ (Distributed Kalman Filter; DKF)

分散型カルマンフィルタ

[R. O.-Saber, IEEE CDC, 2005]

KFの実行周期内に合意フィルタを実行し、必要なデータを各センサノードで得ることで分散的に状態を推定



合意フィルタの実行回数は有限であり、実際には合意誤差が残る

➡ 本発表では

- ・ 推定誤差解析
- ・ 修正版DKFの提案

問題設定

N 個のセンサノードで対象システムを観測し、状態を推定することを考える

対象システムの状態方程式

$$x(k+1) = A(k)x(k) + B(k)w(k)$$

状態の初期値 $x_0 \sim \mathcal{N}(\bar{x}_0, P_0)$

センサ i ($i = 1, \dots, N$)の観測方程式

$$z_i(k) = C_i(k)x(k) + v_i(k)$$

システム雑音, 観測雑音

平均値0の正規性白色雑音

$$\mathbb{E} \left\{ \begin{bmatrix} w(k) \\ v_i(k) \end{bmatrix} \begin{bmatrix} w^T(l) & v_j^T(l) \end{bmatrix} \right\} = \begin{bmatrix} Q(k) & 0 \\ 0 & R_i(k)\delta_{ij} \end{bmatrix} \delta_{kl}$$

δ_{kl} : クロネッカーのデルタ

仮定 1

- (i) 各ノードは $A(k)$, $B(k)$, \bar{x}_0 と P_0 および $Q(k)$ を事前に得ている
- (ii) 各ノードは全ノードの $C_i(k)$ および $R_i(k)$ を事前に共有

通信ネットワーク

有向グラフ $G = (\mathcal{V}, \mathcal{E}, \mathcal{P})$ で表現

$\mathcal{V} = \{1, 2, \dots, N\}$: 頂点集合

$\mathcal{E} \subseteq \mathcal{V} \times \mathcal{V}$: 辺集合

\mathcal{P} : 重み付きペロン行列

$$\mathcal{P} = [p_{ij}], \begin{cases} p_{ij} > 0, & \text{if } (j, i) \in \mathcal{E}, i \neq j \\ p_{ij} = 0, & \text{otherwise} \end{cases}$$

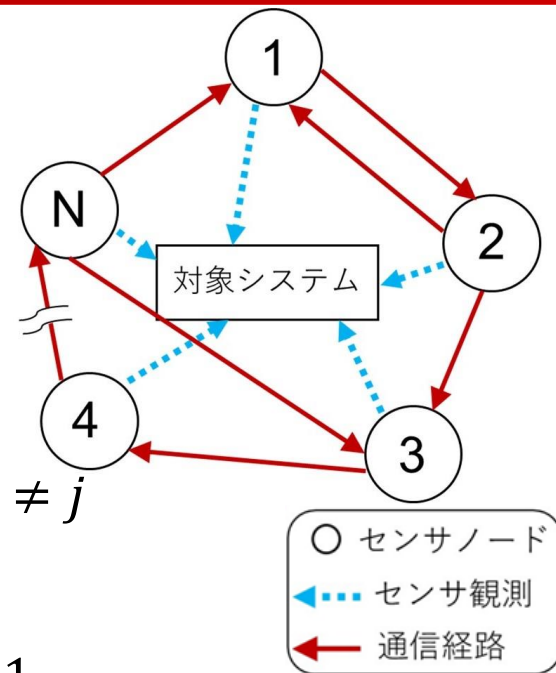
$$\forall i, \sum_{j=1}^N p_{ij} = 1 \quad \forall j, \sum_{i=1}^N p_{ij} = 1$$

仮定 2

- (i) グラフ G のトポロジーは時不変
- (ii) グラフ G は強連結かつ平衡

仮定 3

各ノードは \mathcal{P} を事前に得ている



問題設定

N 個のセンサノードで対象システムを観測し、状態を推定することを考える

対象システムの状態方程式

$$x(k+1) = A(k)x(k) + B(k)w(k)$$

状態の初期値 $x_0 \sim \mathcal{N}(\bar{x}_0, P_0)$

センサ i ($i = 1, \dots, N$)の観測方程式

$$z_i(k) = C_i(k)x(k) + v_i(k)$$

システム雑音, 観測雑音

平均値0の正規性白色雑音

$$\mathbb{E} \left\{ \begin{bmatrix} w(k) \\ v_i(k) \end{bmatrix} \begin{bmatrix} w^T(l) & v_j^T(l) \end{bmatrix} \right\} = \begin{bmatrix} Q(k) & 0 \\ 0 & R_i(k)\delta_{ij} \end{bmatrix} \delta_{kl}$$

δ_{kl} : クロネッカーのデルタ

仮定 1

- (i) 各ノードは $A(k)$, $B(k)$, \bar{x}_0 と P_0 および $Q(k)$ を事前に得ている
- (ii) 各ノードは全ノードの $C_i(k)$ および $R_i(k)$ を事前に共有

通信ネットワーク

有向グラフ $G = (\mathcal{V}, \mathcal{E}, \mathcal{P})$ で表現

$\mathcal{V} = \{1, 2, \dots, N\}$: 頂点集合

$\mathcal{E} \subseteq \mathcal{V} \times \mathcal{V}$: 辺集合

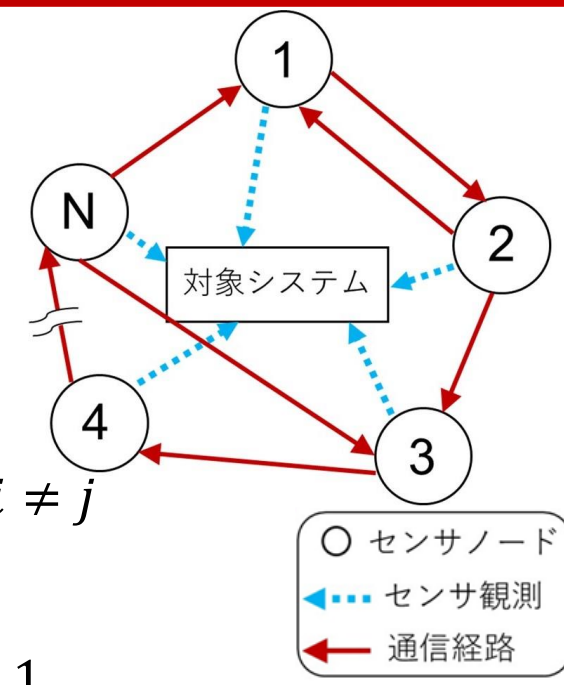
\mathcal{P} : 重み付きペロン行列

$$\mathcal{P} = [p_{ij}], \begin{cases} p_{ij} > 0, & \text{if } (j, i) \in \mathcal{E}, i \neq j \\ p_{ij} = 0, & \text{otherwise} \end{cases}$$

$$\forall i, \sum_{j=1}^N p_{ij} = 1 \quad \forall j, \sum_{i=1}^N p_{ij} = 1$$

仮定 2

時刻0から k までの全センサノードの観測値のデータ集合に基づき、 $x(k)$ の最小分散推定値を分散的に求める。



問題設定

この問題に対して、**集中型カルマンフィルタ**は適用できない(基地局が存在しないため)

➡ そこで、分散型カルマンフィルタを用い、集中型に近い推定値を得ることを考える。

各ノードにカルマンフィルタ(マイクロカルマンフィルタ)を設ける。

集中型

事後推定値

$$\hat{x}(k) = \bar{x}(k) + M(k) \{ C_c^T(k) R_c^{-1}(k) z_c(k) - C_c^T(k) R_c^{-1}(k) C_c(k) \bar{x}(k) \}$$

事後誤差共分散

$$M(k) = \{ P^{-1}(k) + C_c^T(k) R_c^{-1}(k) C_c(k) \}^{-1}$$

事前推定値

$$\bar{x}(k+1) = A(k) \hat{x}(k)$$

事前誤差共分散

$$P(k+1) = A(k) M(k) A^T(k) + B(k) Q(k) B^T(k)$$

分散型

事後推定値

$$\hat{x}_i^\mu(k) = \bar{x}_i^\mu(k) + M_\mu(k) \{ y(k) - S(k) \bar{x}_i^\mu(k) \}$$

マイクロカルマンゲイン

$$M_\mu(k) = \{ P_\mu^{-1}(k) + S(k) \}^{-1}$$

事前推定値

$$\bar{x}_i^\mu(k+1) = A(k) \hat{x}_i^\mu(k)$$

事前誤差共分散

$$P_\mu(k+1) = A(k) M_\mu(k) A^T(k) + B(k) Q_\mu(k) B^T(k)$$

$C_c^T(k) R_c^{-1}(k) z_c(k)$, $C_c^T(k) R_c^{-1}(k) C_c(k)$ 以外は各ノードのもつ情報で計算可能。

これら二つは、代わりに平均合意で求めることで、推定を行う。

ただし、問題設定より、 $y(k)$ のみを合意により求める。

問題設定

アルゴリズム: 分散型カルマンフィルタ(ノード*i*) [R. O.-Saber, IEEE CDC, 2005]

1. 初期化
 事前推定値 $\bar{x}_i^\mu(0) = \bar{x}_0$ 事前誤差共分散 $P_\mu(0) = NP_0$

2. 合意フィルタの実行 (時刻(*k*))
 $y_{i,0}^k = C_i^T(k)R_i^{-1}(k)z_i(k)$
 $l = 0$ から L まで繰り返す
 $y(k) \leftarrow y_{i,l+1}^k = y_{i,l}^k + \sum_{j \in \mathcal{N}_i} p_{ij} (y_{j,l}^k - y_{i,l}^k)$

3. マイクロカルマンフィルタの観測更新
 $\hat{x}_i^\mu(k) = \bar{x}_i^\mu(k) + M_\mu(k)\{y(k) - S(k)\bar{x}_i^\mu(k)\}$
 $M_\mu(k) = \{P_\mu^{-1}(k) + S(k)\}^{-1}$

4. マイクロカルマンフィルタの時間更新
 $\bar{x}_i^\mu(k+1) = A(k)\hat{x}_i^\mu(k)$
 $P_\mu(k+1) = A(k)M_\mu(k)A^T(k) + B(k)Q_\mu(k)B^T(k)$

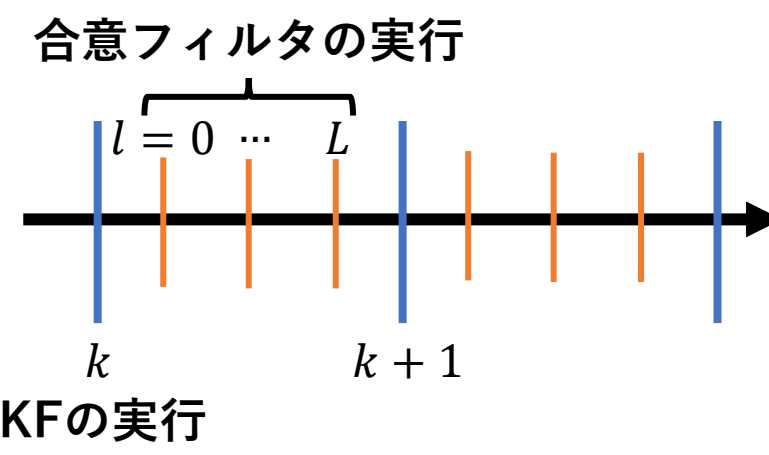
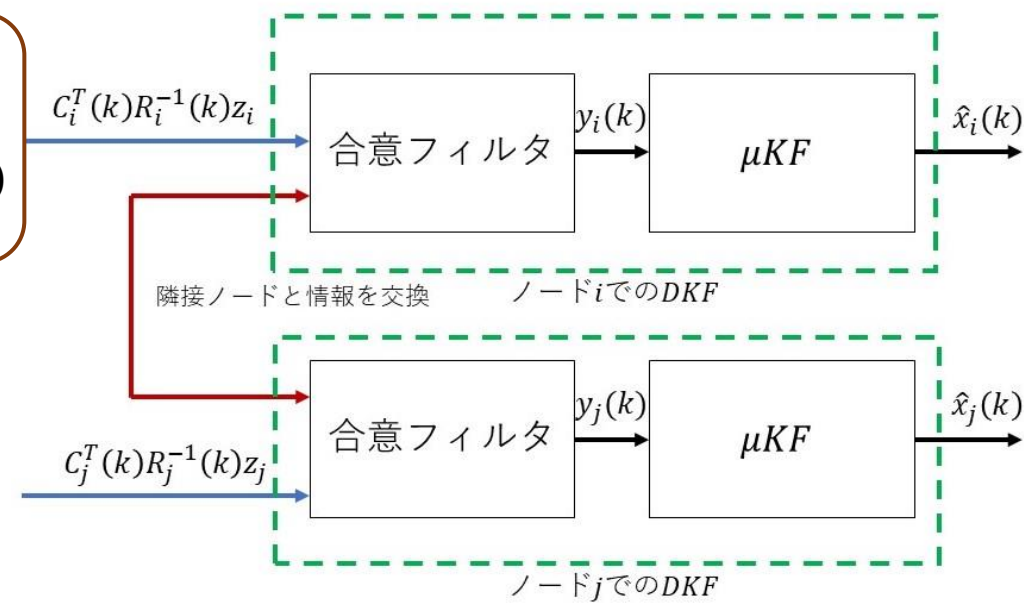
5. 時刻を $k \rightarrow k+1$ にして, 2へ戻る

加重平均観測値

$$y(k) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N C_i^T(k)R_i^{-1}(k)z_i(k)$$

平均逆共分散

$$S(k) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N C_i^T(k)R_i^{-1}(k)C_i(k)$$



$$\mathcal{N}_i := \{j \in \mathcal{V} : (j, i) \in \mathcal{E}\}$$

$$Q_\mu(k) = NQ(k)$$

問題設定

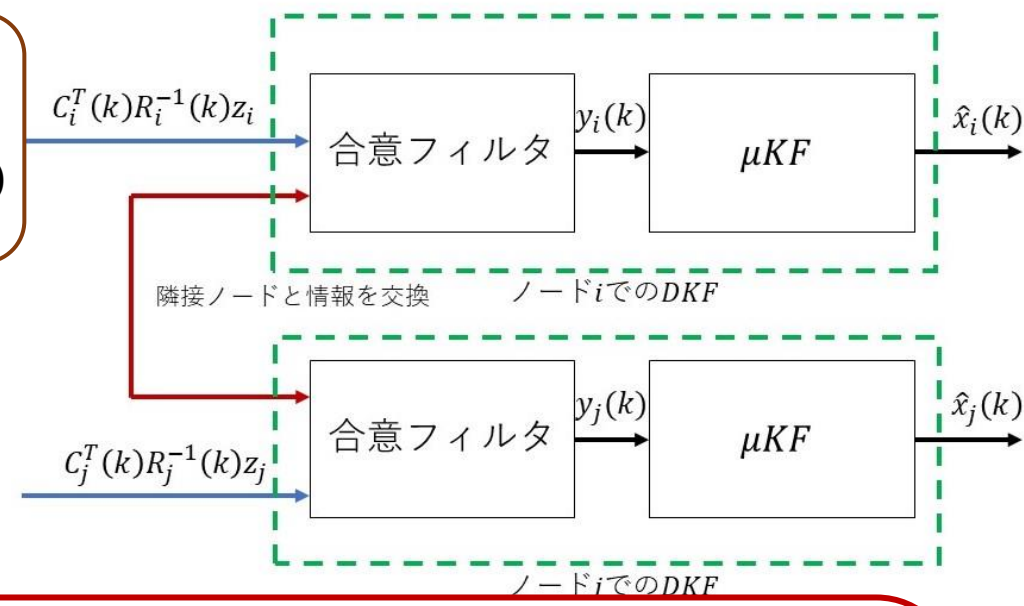
アルゴリズム: 分散型カルマンフィルタ(ノード*i*) [R. O.-Saber, IEEE CDC, 2005]

1. 初期化
 事前推定値 $\bar{x}_i^\mu(0) = \bar{x}_0$ 事前誤差共分散 $P_\mu(0) = NP_0$

加重平均観測値

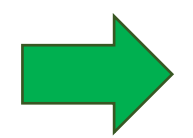
$$y(k) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N C_i^T(k) R_i^{-1}(k) z_i(k)$$

2. 合意フィルタの実行 (時刻(*k*))
 $y_{i,0}^k = C_i^T(k) R_i^{-1}(k) z_i(k)$
 $l = 0$ から L まで繰り返す
 $y(k) \leftarrow y_{i,l+1}^k = y_{i,l}^k + \sum_{j \in \mathcal{N}_i} p_{ij} (y_{j,l}^k - y_{i,l}^k)$



3. マイクロカルマンフィルタの観測更新

合意を ∞ 回実行できれば, 集中型と同じ推定値を得られるが, 実際は有限回しか実行できず, 合意誤差が残る.



1. 合意誤差が推定値へ与える影響の解析
2. 合意が有限回でも不偏推定値を計算できる手法の提案

5. 時刻を $k \rightarrow k + 1$ にして, 2へ戻る

$$\mathcal{N}_i := \{j \in \mathcal{V} : (j, i) \in \mathcal{E}\}$$

合意誤差に基づく推定誤差解析

有限回実行したときの合意フィルタ

$$y_{i,0}^k = C_i^T(k)R_i^{-1}(k)z_i(k)$$

$l = 0$ から L まで繰り返す

$$y(k) \leftarrow y_{i,l+1}^k = y_{i,l}^k + \sum_{j \in \mathcal{N}_i} p_{ij} (y_{j,l}^k - y_{i,l}^k)$$

$y_l^k = \text{col}(y_{1,l}^k, y_{2,l}^k, \dots, y_{N,l}^k)$ と置く.

$$y_{l+1}^k = (\mathcal{P} \otimes I_n)y_l^k$$

L 回反復時は, $y_L^k = (\mathcal{P}^L \otimes I_n)y_0^k$

[R. O.-Saber, et al., Proc. of the IEEE, 2007]

センサノード i で利用可能な観測情報

$$\eta_i(k) = y_{i,L}^k = \sum_{j=1}^N \pi_{ij}^{(L)} C_i^T(k)R_i^{-1}(k)z_i(k)$$

$\pi_{ij}^{(L)}$: \mathcal{P}^L の (i, j) -成分

アルゴリズム: 合意誤差を含むマイクロカルマンフィルタ ($\mu\text{KF}'$)

観測更新

$$\hat{x}_i(k) = \bar{x}_i(k) + M_\mu(k) \{ \eta_i(k) - S(k)\bar{x}_i(k) \}$$

$$M_\mu(k) = \{ P_\mu^{-1}(k) + S(k) \}^{-1}$$

時間更新

$$\bar{x}_i(k+1) = A(k)\hat{x}_i(k)$$

$$P_\mu(k+1) = A(k)M_\mu(k)A^T(k) + B(k)Q_\mu(k)B^T(k)$$

合意誤差 $\tilde{y}_i(k) = \eta_i(k) - y(k)$ を含む, 観測情報 $\eta_i(k)$ で推定



推定値への影響は...?

初期条件

$$\bar{x}_i(0) = \bar{x}_0$$

$$P_\mu(0) = NP_0$$

合意誤差に基づく推定誤差解析

合意誤差 $\tilde{y}_i(k)$ を含むときの事後状態推定誤差の期待値 $\beta_i(k)$ について調べる.

定理 1

合意誤差を含む μ KFの事後状態推定誤差の期待値を $\beta_i(k) = \mathbb{E}[\hat{x}_i(k) - x(k)]$ とすると、つぎの差分方程式が成り立つ

$$\beta_i(k) = \Phi(k)\beta_i(k-1) + M_\mu(k)\mathbb{E}[\tilde{y}_i(k)]$$

$$\beta_i(0) = M_\mu(0)\mathbb{E}[\tilde{y}_i(0)]$$

ただし、

$$\Phi(k) := \{I_n - M_\mu(k)S(k)\}A(k-1)$$

証明
(略)

定理1は、合意誤差 $\tilde{y}_i(k) = 0$ でなければ誤差が蓄積し、推定値の不偏性が損なわれることを示す。すなわち、有限回の合意では不偏推定値とはならない。

合意誤差に基づく推定誤差解析

合意誤差を含む μ KFの推定誤差共分散は次のように表される.

定理 2

合意誤差を含む μ KFの事前推定誤差共分散を $P_i(k)$, 事後推定誤差共分散を $M_i(k)$ とすると, その更新式は次のように表される.

$$M_i(k) = \{I - M_\mu(k)S_i(k)\}P_i(k)\{I - M_\mu(k)S_i(k)\}^T + M_\mu(k) \sum_{j=1}^N \left(\pi_{ij}^{(L)}\right)^2 C_j^T(k)R_j^{-1}(k)C_j(k)M_\mu(k)$$

$$P_i(k+1) = A(k)M_i(k)A^T(k) + B(k)Q(k)B^T(k)$$

ただし,

$$S_i(k) = \sum_{j=1}^N \pi_{ij}^{(L)} C_j^T(k)R_j^{-1}(k)C_j(k)$$

証明(略) 誤差共分散の定義より, 定理2が成り立つことを確認できる

集中型の更新式では $\frac{1}{N}$ となっているところが, 分散型では $\pi_{ij}^{(L)}$ となっている.
すなわち, 合意の回数を ∞ にすることで集中型の誤差共分散に収束する.

修正版分散型カルマンフィルタ

合意誤差 $\tilde{y}_i(k)$ の期待値を各時刻で除去することで推定値の不偏性を回復

合意誤差 $\tilde{y}_i(k)$ の期待値

$$\mathbb{E}[\tilde{y}_i(k)] = \sum_{j=1}^N \left(\pi_{ij}^{(L)} - \frac{1}{N} \right) C_i^T(k) R_i^{-1}(k) C_i(k) \mathbb{E}[x(k)]$$

$\Gamma_i(k)$ $\bar{x}_i(k)$ で代用

仮定1, 3から, 各ノードで計算可能

は, 各ノードで利用可能.

アルゴリズム: バイアス補償型マイクロカルマンフィルタ (β - μ KF)

観測更新

$$\hat{x}_i(k) = \bar{x}_i(k) + M_\mu(k) \{ \eta_i(k) - S(k) \bar{x}_i(k) \} - M_\mu(k) \Gamma_i(k) \bar{x}_i(k)$$

$$M_\mu(k) = \{ P_\mu^{-1}(k) + S(k) \}^{-1}$$

バイアス補償項

$\eta_i(k)$ を用いるために
生じるバイアスを補償し,
推定値の不偏性を回復
(数学的帰納法により確認)

時間更新

$$\bar{x}_i(k+1) = A(k) \hat{x}_i(k)$$

$$P_\mu(k+1) = A(k) M_\mu(k) A^T(k) + B(k) Q_\mu(k) B^T(k)$$

初期条件

$$\bar{x}_i(0) = \bar{x}_0$$

$$P_\mu(0) = N P_0$$

シミュレーション

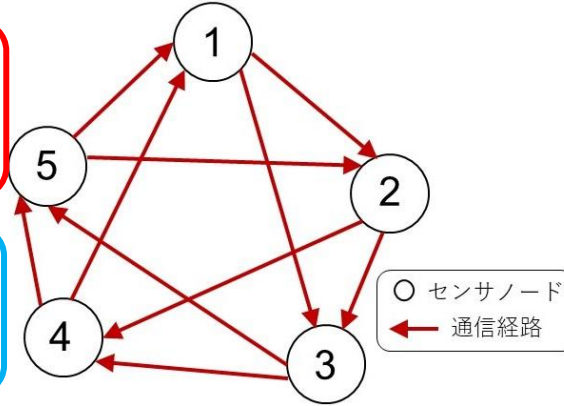
先行研究と提案法を比較し, 有効性を確認

対象システムの状態方程式

$$x(k+1) = A(k)x(k) + B(k)w(k)$$

センサ i ($i = 1, \dots, 5$)の観測方程式

$$z_i(k) = C_i(k)x(k) + v_i(k)$$



$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 & -\frac{\pi}{3}\Delta t \\ 0 & 1 & 0 & -\frac{\pi}{3}\Delta t & 0 \\ 0 & 0 & 1 - \frac{\pi}{3}\Delta t & 0 & 0 \\ 0 & \frac{\pi}{3}\Delta t & 0 & 1 & 0 \\ \frac{\pi}{3}\Delta t & 0 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}, B = I_5,$$

$$C_1(k) = [1 \ 0 \ 0 \ 0 \ 1], C_2(k) = [0 \ 0 \ 1 \ 0 \ 1],$$

$$C_3(k) = [1 \ 1 \ 1 \ 0 \ 0], C_4(k) = [0 \ 0 \ 1 \ 1 \ 1], C_5(k) = [0 \ 1 \ 0 \ 1 \ 1]$$

シミュレーション時間	18 [s]
サンプリング周期	$\Delta t = 0.06$ [s]
合意フィルタゲイン	$\varepsilon = 1.1 \times 10^{-3}$
ネットワーク重み	$a_{ij} = \begin{cases} 1, & \text{if } (j, i) \in \mathcal{E}, i \neq j \\ 0, & \text{otherwise} \end{cases}$
合意フィルタ反復回数	$L = 50$ [回]
初期状態	$\bar{x}_0 = [100, 100, 100, 100, 100]$
初期誤差共分散行列	$P_0 = I_5$

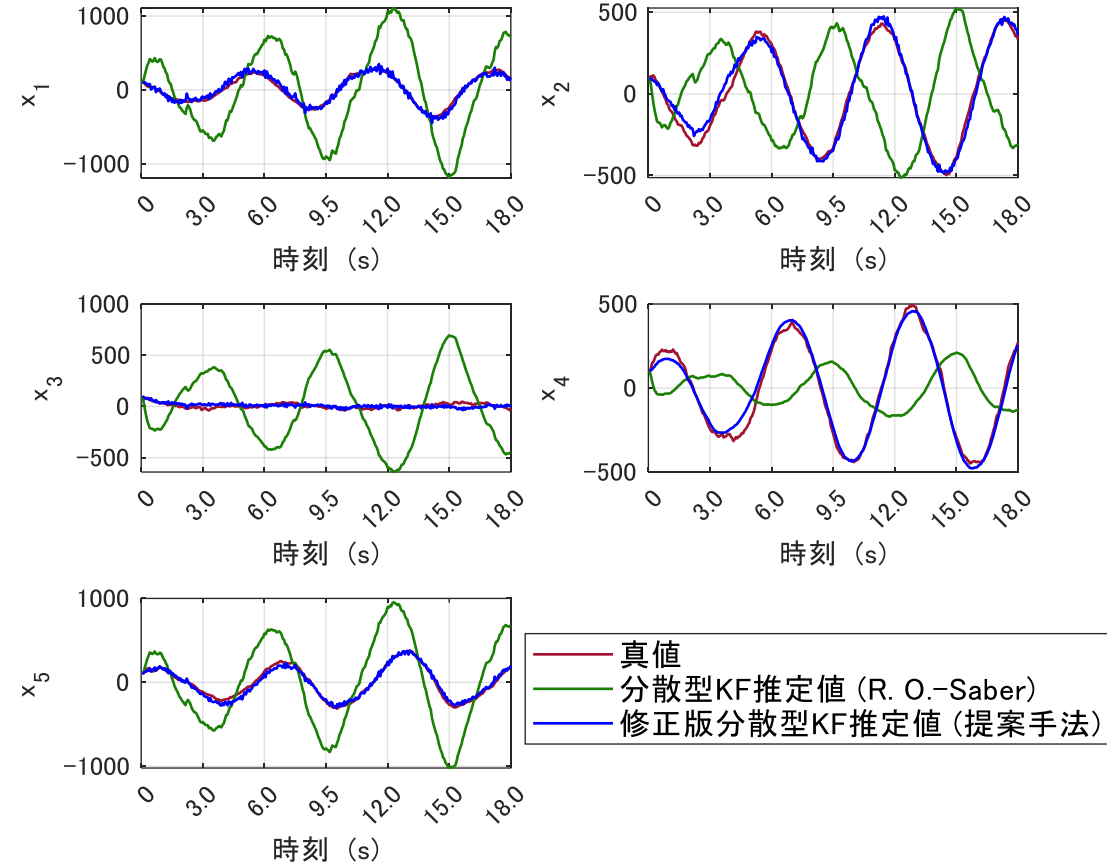
$$x = [x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ x_5]^T$$

雑音の共分散

$$Q = 65I_5$$

$$R_1 = R_2 = R_3 = 730$$

$$R_4 = R_5 = 720$$



推定結果 (ノード1)

提案手法は先行研究に比べ,
推定精度が高い

シミュレーション

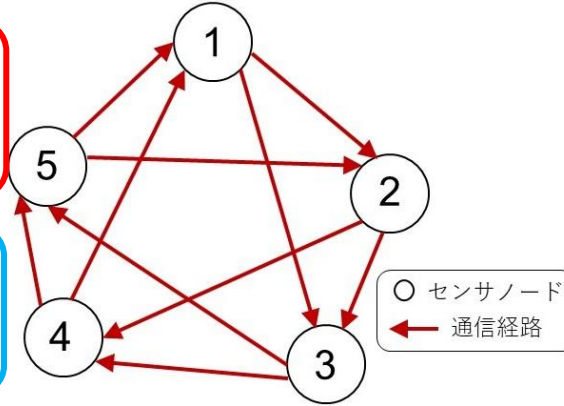
集中型と分散型(先行研究)の誤差共分散を比較

対象システムの状態方程式

$$x(k+1) = A(k)x(k) + B(k)w(k)$$

センサ i ($i = 1, \dots, 5$)の観測方程式

$$z_i(k) = C_i(k)x(k) + v_i(k)$$



$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 & -\frac{\pi}{3}\Delta t \\ 0 & 1 & 0 & -\frac{\pi}{3}\Delta t & 0 \\ 0 & 0 & 1 - \frac{\pi}{3}\Delta t & 0 & 0 \\ 0 & \frac{\pi}{3}\Delta t & 0 & 1 & 0 \\ \frac{\pi}{3}\Delta t & 0 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}, B = I_5,$$

$$C_1(k) = [1 \ 0 \ 0 \ 0 \ 1], C_2(k) = [0 \ 0 \ 1 \ 0 \ 1],$$

$$C_3(k) = [1 \ 1 \ 1 \ 0 \ 0], C_4(k) = [0 \ 0 \ 1 \ 1 \ 1], C_5(k) = [0 \ 1 \ 0 \ 1 \ 1]$$

シミュレーション時間	18 [s]
サンプリング周期	$\Delta t = 0.06$ [s]
合意フィルタゲイン	$\varepsilon = 1.1 \times 10^{-3}$
ネットワーク重み	$a_{ij} = \begin{cases} 1, & \text{if } (j, i) \in \mathcal{E}, i \neq j \\ 0, & \text{otherwise} \end{cases}$
合意フィルタ反復回数	$L = 50$ [回]
初期状態	$\bar{x}_0 = [100, 100, 100, 100, 100]$
初期誤差共分散行列	$P_0 = I_5$

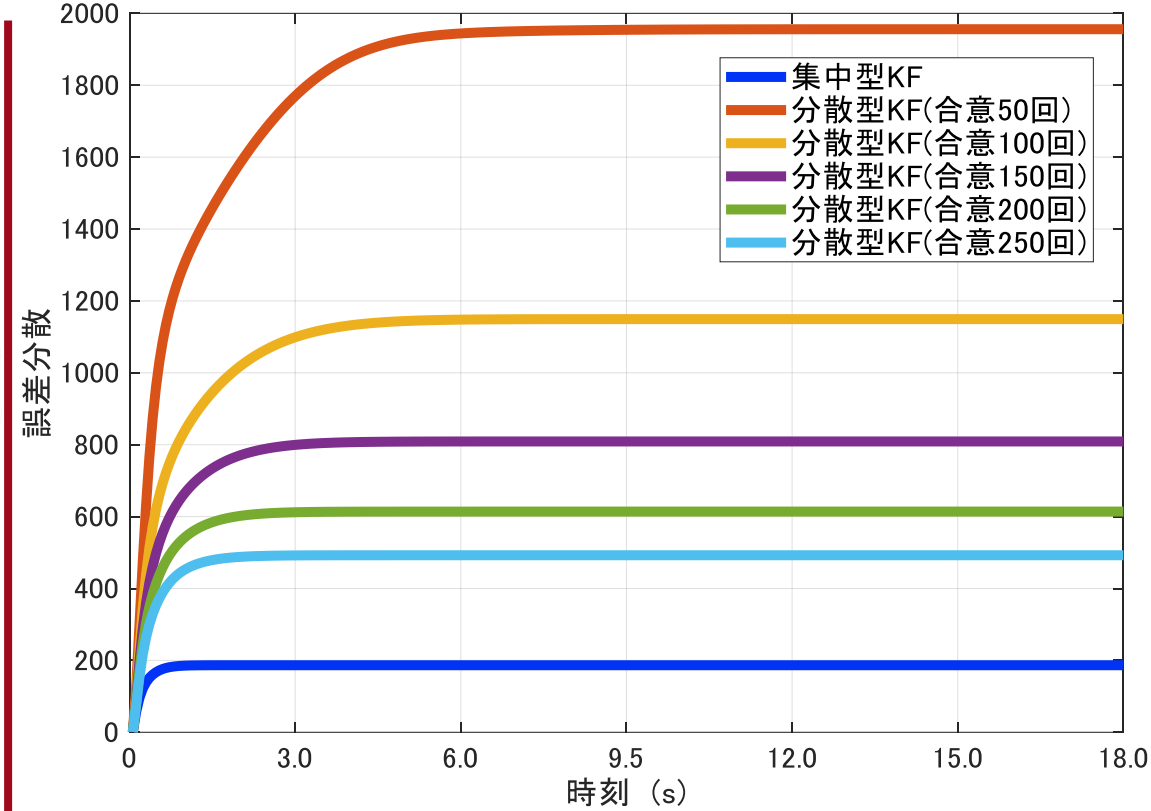
$$x = [x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ x_5]^T$$

雑音の共分散

$$Q = 65I_5$$

$$R_1 = R_2 = R_3 = 730$$

$$R_4 = R_5 = 720$$



ノード1における x_1 の事後推定誤差分散

分散型の $\mathbb{E}[|x_1(k) - \hat{x}(k)|^2]$ は、
合意の回数を増やすことで集中型の
分散に収束。

おわりに

本発表では

分散型カルマンフィルタにおいて、合意誤差により推定値の不偏性が失われること、およびそのときの推定誤差共分散の更新式

を示した。また、

合意誤差によるバイアスを補償する、修正版分散型カルマンフィルタを提案した。

今後の課題

- ・ 無香料カルマンフィルタなどの、非線形カルマンフィルタの分散化